

太陽は勿論、地球のマントルも地球生命の源だ。

ヒトが猿から生まれたと言うならその猿は誰が生んだのか？

井上達明建築事務所 正会員 ○井上 達明

一昨年の論文では、或る「種」の絶滅が新しい「種」を生み出すことを、又昨年の論文では「種」の絶滅を齎す地球大異変によって遺伝子が解体され、再組み立てされて新しい種が生まれる機序を述べた。

ところで、今から6千5百万年前、現存地球動物の原型であり約2億年間生存し続けた地球上総ての海・陸・空の恐竜や、3億数千万年を生き続けた総てのアンモナイト(軟体動物頭足類の菊石類でオウムガイに似た巻貝、大きいものは直径2m)、サンゴ虫やプランクトンの数十%等が絶滅したことについて、未だに北米の南端ユカタン半島に隕石が落下した為との説が巷間に広く流布されている。

しかし、2004年「NHKスペシャル 地球大進化」の第5巻108頁で東京大学の玉木賢策(海洋底テクトニクス専攻)は、生命進化の駆動力は大陸の分裂と移動であるとし、それによって発生する大量の洪水玄武岩の大噴流が地球大異変を引き起こし、それによる生命の大量絶滅によって地球の生物全体は、進化の原則に従ってより強く逞しくなったとする。玉木は、アメリカの海洋地球物理学者ジェイソン・フィップス・モーガン等の提唱する、19世紀フランスのSF作家ジュール・ヴェルヌ(「地底探検」「八十日間世界一周」)の「月世界旅行」において人類を弾丸に乗せて月に送る為の巨大な大砲になぞらえた「ヴェルヌ・ショット説」を紹介する。玉木は述べる、即ち分裂していく大陸の間に出現する洪水玄武岩はマントルプルーム(mantle: 中間層、地球の地殻と中心部[地球の磁場を作り出す溶融した鉄とニッケルの外核と同じく鉄とニッケルの固い内核—直径2400km、4000℃]の中間にあり、橄欖岩質でゆっくり対流運動を行っていると考えられる層。高温。深さ約2900km。地球全体積の80%以上を占める。plume: 湧昇流)によって形成される。そして地球表層は固い岩石層であるリソスフェア(lithosphere、litho: 石の)に覆われていて、その下には流動的なアセノスフェア(岩流圏、粘性体、athenic: 衰弱の、無力の)が存在する。マントル内を上昇してきたマントルプルームが大陸リソスフェアの底に達すると、リソスフェアを割って洪水玄武岩を噴出させ大陸分裂を起こす。分裂時に起こる大陸移動は、大陸リソスフェアがアセノスフェアの上を水平に滑ることによって起きる。地球表面を水平に移動する一塊になったリソスフェアがプレートで、大陸はプレートに乗って動いている訳である。洪水玄武岩は大陸が分裂し易いクラトン(約25億年以上前に形成された大陸の核となる部分。厚さ400kmの厚いリソスフェアを持つ。超大陸は複数のクラトンが集まって出来たも

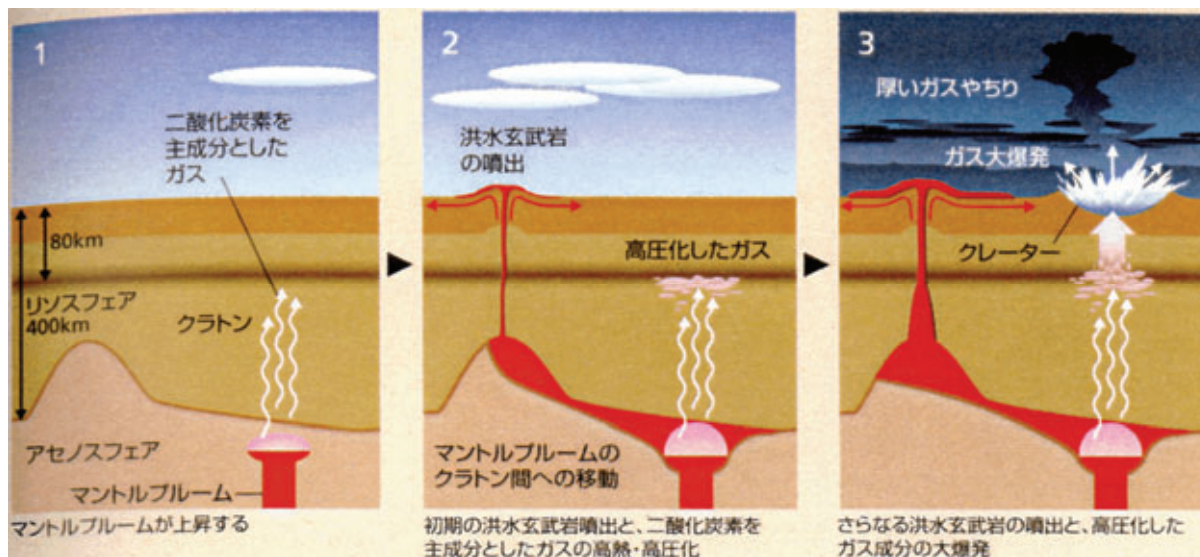


図1 大量絶滅のシナリオ(「NHKスペシャル 地球大進化」第5巻114頁)

進化の駆動力、ヴェルヌ・ショット、マントルプルーム、リソスフェア、アセノスフェア、地下爆発

大阪府大阪市西淀川区竹島3丁目7番4号 井上達明建築事務所 電話:06-6478-1028 FAX:06-6478-1026

の)とクラトンの間に噴出する。ここからがフィッブス・モーガン等の「ヴェルヌ・ショット仮説」である。マントルブルームが突き当たった場所について、元々クラトンのあった場所は何百万年という間に熱せられ、クラトンとクラトンの間のリソスフェアの薄い部分に二酸化炭素を主体とした高温ガスが溜まっていくと仮定する。高温ガスは物理学的に平衡になる地下80kmのリソスフェア内にどんどん溜まっていき、遂には途方もない地下爆発を起こす。80kmの厚さのリソスフェアは大気中に吹き飛ばされる。これがヴェルヌ・ショットである。ヴェルヌ・ショットは高圧変成石英や焼け焦げた岩石片を撒き散らし、更に巨大なクレーター(crater、噴火口、ラテン語)を形成する。地球深部から地球形成初期にマントル内に入り込んだイリジウムも地表に送り出される。これまで隕石衝突として説明されてきた様々な観察事実が地球内部のリソスフェア爆発、つまりヴェルヌ・ショットで説明出来るのである。大絶滅に隕石衝突は必要ないと玉木は言う。

ヒトはヒトとして生まれた。猿がヒトになったのではない。今の猿の子孫がヒトに進化することはない。最初にヒトとして生まれたヒトはどうやって生き延びたのか？ 今から7百万年前のことと考えられる。5千年前のエジプト文明やメソポタミア文明そしてインダス文明に至る前、恐らく数十万年或いは百万年前には獣達とは異なる知能を持ち、道具を作り、建物を造り、狩猟に加え恐らく農耕も行っていたであろうが、それに至るまでは数え切れない個体の犠牲も種としての絶滅もあったであろうと考えられる。私達は、他のどの太陽系の惑星よりも生き物にとり奇跡的に恵まれている地球とはいえ大した道具もシェルターもない数百万年前、そのささやかな知恵と体力を120%使って生き延びた霊長類・人類の子孫なのである。霊長類は哺乳類の一つの目であり脊椎動物である。脊椎動物の起源は5億年前の両生類及び魚類であるが、2億5千万年前の三畳紀の恐竜出現によって現代の脊椎動物の原型が出来上がった。東京の国立科学博物館でもヒトとバンビラプトル(鳥類に近縁な恐竜)の骨格の類似点を図像で展示している。

地質年代表		ヒトはどこからきたのか？	
地	相対年代	絶対年代 (×100万年前)	動物
地	第四紀	現世	1
		更新世(洪積世)	1.8
		鮮新紀	5.3
		中新紀	23.8
	第三紀	漸新紀	33.7
		始新紀	54.8
		白垩紀	65.0
		白亜紀(Kreide)	144
	中生代	ジュラ紀	213
		三畳紀(Triassic)	248
球	古生代	二疊紀(ペルム紀)(Permian)	286
		石炭紀	360
		デボン紀	408
		シルル紀	438
	先カンブリア時代	オルドビス紀	505
		カンブリア紀	600
		800	
		1000	
	月誕生 地球形成	1200	多細胞生物出現
		2500	真核生物出現
		3500	原核生物出現(前核生物)
		4500	
		4600	
	太陽形成		5000
	銀河群誕生		12000
	ビッグ・バン		13700

象
7 人類の赤唇線
土踏まず
マンモス
始祖鳥
ヒラコテリウム(馬似)
60 子宮
地上・海・空の恐竜絶滅
パンゲア超大陸 五大陸に分裂
→遺伝子解体・組替
→遺伝子解体・組替
地球生物史上最大の絶滅
超大陸パンゲア 形成
360 耳
370 肺
400 胃・歯・四肢
500 心臓・腸・目・鼻
全地球凍結 大氷河時代 海大量絶滅
大絶滅
アノマロカリス、オドントグリフス等
生命大爆発 パーミウス頁岩の動物群
原始的な高等生物の出現
現在の海洋・大気が出来た
=動物や植物を構成する細胞
バクテリア=細菌、
シアノバクテリア
→化石: ストロマトライト



図2 国立科学博物館で特別展用に制作したジャワ原人男女の復元像。眉の部分のどっぴりや、額の狭さ、体の頑丈さなどに、アジアの原人の特徴が見られる。(「NHKスペシャル 地球大進化」第6巻116頁)